

## おわりに

最後までご覧頂いて、専門家がなぜ「国際頭痛分類 第3版β版」を頭痛診療および頭痛研究の絶対的な基準（教義・教典）とされるのかが理解されただけです。

「国際頭痛分類 第3版β版」では、”片頭痛と明確に定義された”「国際頭痛分類 第3版β版」の基準に合致しないものが緊張型頭痛とされ、いわば緊張型頭痛は”ゴミダメ”的な性格の強い頭痛とされ、専門家の間では、極めて”取るに足らない頭痛”とされています。このように全く無視されています。

このように片頭痛と緊張型頭痛が全く別の範疇の頭痛と考えさせるようにしています。

本来、”未病”の段階にある、片頭痛と緊張型頭痛の慢性頭痛とは「健康的な生活」を送ることを阻害する”生活習慣”に根本的な原因があります。

健康的な生活を送るためにはミトコンドリアが重要な鍵を握っています。

このように片頭痛は、ミトコンドリアの機能の低下によって起きる頭痛です。

現在では、ミトコンドリアを治すものが”病気を制する！”とされています。

この事実は、医学界では何十年もタブーとされてきました。

オットー・ウォーバーグが”ワールブルグ効果”を発表した時には、この事実がわかったのですが、製薬会社や医者利益を守る為に封印されてきました。

「国際頭痛分類 第3版β版」は、その生い立ちを考えれば、トリプタン製薬メーカーおよびトリプタン御用学者が作成したものです。

これを専門家は、国際頭痛学会が作成した世界で最も権威あるものとされ、これを頭痛診療および頭痛研究の絶対的な基準（教義・教典）としています。

このようにして製薬メーカーは、専門家を支配下におくことになっています。

このため、片頭痛と緊張型頭痛はまったく別の範疇の頭痛とされることによって、緊張型頭痛と片頭痛は、一切、連続した頭痛と考えることはなくなり、予防などは論外とされ、日常的に感じる極く軽度の頭痛・緊張型頭痛から片頭痛へと容易に醸成・熟成されることになっています。